

# 最適発注を検証

## 人材育成のあり方示す

建設事業運営  
方式協シンポ



建設工事の多様な発注のあり方を探る「建設プロジェクト運営方式協議会」（会長・

椎名武雄日本アイ・ビー・エム名誉相談役）は16日、東京都千代田区の日経ホールで法人化記念シンポジウムを開いた。

冒頭、植村公一副会長は「建設プロジェクトの発注のあり方とともに、求められる人材も変革を求められている

る。発注者、受注者それぞれの立場から最適な発注のあり方を比較検証してきた。人材育成のあり方も示し、社会に貢献した活動をこれから進める」とあいさつした。写真。

来賓として、和泉洋人内閣総理大臣補佐官は「発展途上国でもこれからはPPPやPFIIにシフトする流れが強まる。協議会を通じて建設業の新しい扉を開いてほしい」と述べ、森昌文国土交通省技監はPPPやCM（コンストラクション・マネジメント）、さらにはECI（アーリー・

コントラクター・インボルブメント）など多様な契約方式が具体化する中で「協議会の活動は極めて重要。その成果を受け止め、現場に反映したい」と強調した。

続いて建築家で東大教授の隅研吾氏が「建築と都市の新时代」をテーマに基調講演した。研究報告では調査委員会委員長の野城智也東大生産技術研究所教授や、作業部会長の志手一哉芝浦工大建築学部建築学科教授らが、発注者を支援する人材像などの研究成果を紹介した。

# 研究活動成果を報告

## 法人化記念シンポジウム開催

CPDS

ゼネコンや建設コンサル

ルタントなど53社で構成する建設プロジェクト運営方式協議会（CPDS）、会長・椎名武雄（日本アイ・ビー・エム名誉相談役）は16日、東京・千代田区の日経ホールで法人化記念シンポジウム「多様化する建設プロジェクトの担い手像」を開催した。写真。

冒頭、椎名会長の代理として挨拶に立った植村公一副会長（インデックスコンサルディング社長）は、「当協議会は、今年で3年目を迎える。少子高齢化などが進むなかで、建設プロジェクトの発注のあり方、システム、求められる人材も変革の時期を迎えている。この協議会では、調査委員会を通じ、最適な発注方式について比較検討してきた。今日は、これまでの研究成果の報告を行うとともに、それを踏まえた人材育成のあり方について考える機会にしてければ有り難い」

と述べた。

同シンポジウムでは、CPDSがこれまで行ってきた作業部会・人材育成委員会などによる研究



活動の成果を報告したほか、建築家の隈研吾氏が「建築と都市の新時代」と題する基調講演を行った。